

スタートアップ ガイド



Catalyst 3560 スイッチ スタートアップ ガイド

Catalyst 3560 Switch Getting Started Guide

OL-17734-02-J

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意 (www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)をご確認ください。

本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、 日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動 / 変更されている 場合がありますことをご了承ください。

あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照く ださい。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

- 1 このマニュアルについて (P.2)
- 2 部品の確認 (P.2)
- 3 Express Setup の実行(P.6)
- 4 スイッチの管理 (P.9)
- 5 スイッチの設置 (P.10)
- 6 AC 電源コードの固定(Catalyst 3560 8 ポートおよび 12 ポート スイッチ)(P.15)
- 7 スイッチ ポートへの接続(P.17)
- 8 問題が発生した場合 (P.19)

- 9 マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート (P.21)
- 10 シスコ リミテッド ライフタイム保証 (P.21)

1 このマニュアルについて

このマニュアルでは、Express Setup を使用してスイッチを設定する方法について説明します。また、スイッチの管理オプション、基本的なラックマウント手順、ポートおよびモジュールの接続、電源の接続手順、トラブルシューティング ヘルプについても説明します。

Catalyst 3560 スイッチのその他のインストレーションおよびコンフィギュレーションについては、Cisco.com で提供されている Catalyst 3560 のマニュアルを参照してください。また、システム要件、重要な注意事項、制限事項、未修正および修正済みのバグ、最終更新に含まれていない更新などについては、Cisco.com で提供されているリリース ノートを参照してください。

オンラインの資料を使用する場合は、スイッチで実行する Cisco IOS ソフトウェアのバージョンに対応するものを参照してください。ソフトウェアのバージョンは、スイッチ背面パネルの Cisco IOS ラベルに記載されています。

このガイドに記載されている警告の各国語版については、ドキュメント CD に収録されている『Regulatory Compliance and Safety Information for the Catalyst 3560 Switch』を参照してください。

2 部品の確認

- 1. 出荷ボックスを開梱し、スイッチとアクセサリキットを取り出します。
- 2. 梱包材を出荷用ボックスに戻し、後で使用する場合に備えて保管しておきます。
- **3.** 3ページに記載されている部品が揃っていることを確認します。欠品または損傷品が見つかった場合は、製品の購入代理店まで問い合わせてください。一部のスイッチモデルには、その他の部品も含まれています。また、オプション部品の用意または発注が必要となる場合もあります。

Express Setup の実行に必要な機器(ユーザ側で用意するもの)

次の機器が必要です。

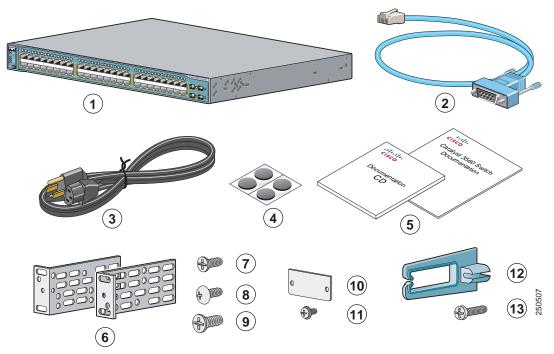
- PC
- カテゴリ5のストレートイーサネットケーブル(下図を参照)



梱包内容

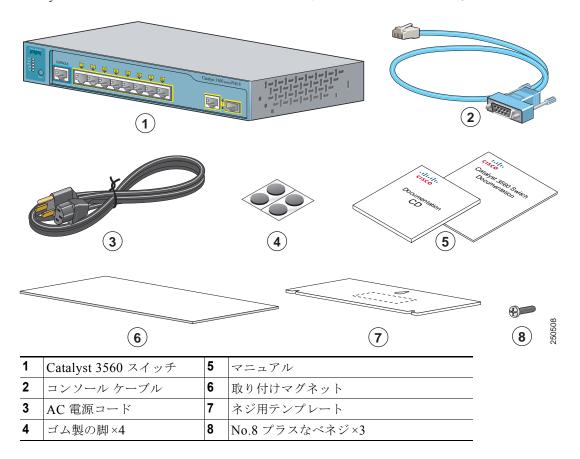
スイッチの梱包内容は、スイッチのモデルおよび選択したオプションによって異なります。下図の一部の部品はオプションであり、ご使用のスイッチの外観とは異なる場合があります。

Catalyst 3560 24 ポートおよび 48 ポート スイッチの梱包内容は次のとおりです。



1	Catalyst 3560 スイッチ	8	No.8 プラス トラスヘッド ネジ×4
2	コンソール ケーブル	9	No.8 プラス フラットヘッド ネジ×6
3	AC 電源コード	10	冗長電源システム(RPS)用コネクタ カバー
4	ゴム製の脚×4	11	No.4 なべネジ×2
5	マニュアル	12	ケーブル ガイド
6	19 インチ用マウント ブラケット×2	13	黒の小ネジ×1
7	No.12 プラス小ネジ×4		

Catalyst 3560 8 ポートおよび 12 ポート スイッチの梱包内容は次のとおりです。



設置に関する警告事項

必要な言語に翻訳された警告については、ドキュメント CD の『Regulatory Compliance and Safety Information for the Catalyst 3560 Switch』を参照してください。



警告

この装置の設置、交換、または保守は、訓練を受けた相応の資格のある人が行ってください。ステートメント 148



整生

過熱防止のため、室温が 113°F(45°C)を超える環境ではスイッチを使用しないでください。また、通気を妨げないように、通気口の周囲に 3 インチ(7.6 cm)以上のスペースを確保してください。ステートメント 17B



警告

装置は地域および国の電気規則に従って設置する必要があります。ステートメント 1074

A

警告

ラックに装置を取り付けたり、ラック内の装置のメンテナンス作業を行ったりする場合は、事故を防ぐため、装置が安定した状態で置かれていることを十分に確認してください。安全を確保するために、次の注意事項を守ってください。

- ラックに設置する装置が1台だけの場合は、ラックの一番下に取り付けます。
- ラックに複数の装置を設置する場合は、最も重い装置を一番下に設置して、下から順番に取り付けます。
- ラックにスタビライザが付いている場合は、スタビライザを取り付けてから、ラックに装置を設置したり、ラック内の装置を保守してください。ステートメント 1006

A

警告

この装置は、アースされていることが前提になっています。通常の使用時には必ず装置がアースされているように してください。ステートメント 39



警告

Redundant Power System (RPS; 冗長電源システム) がスイッチに接続されていない場合、スイッチの裏側に RPS コネクタ カバーを取り付けてください。ステートメント 265



警告

クラス 1 レーザー製品です。ステートメント 1008



警告

この装置が設置された建物の外部の接続に関しては、集積回路保護が施された、認定されたネットワーク終端装置を通して、10/100/1000 イーサネット ポートに接続する必要があります。ステートメント 1044



警告

絶縁されていない金属接点、導体、または端子を Power over Ethernet (PoE; パワー オーバー イーサネット) 回路の相互接続に使用すると、電圧によって感電事故が発生することがあります。危険性を認識しているユーザまたは保守担当者だけに立ち入りが制限された場所を除いて、このような相互接続方式を使用しないでください。立ち入りが制限された場所とは、特殊な工具、錠と鍵、またはその他のセキュリティ手段を使用しないと入れない場所を意味します。ステートメント 1072

3 Express Setup の実行

Express Setup を使用して初期 IP 情報を入力すると、スイッチをローカル ルータとインターネットに接続できます。その IP アドレスでスイッチにアクセスし、詳細な設定ができるようになります。

ステップ1 スイッチに何も接続されていないことを確認します。

Express Setup の実行中、スイッチは DHCP サーバとして動作します。PC に固定 IP アドレスが設定されている場合は、あらかじめ PC の設定を変更し、一時的に DHCP を使用する設定にしておきます。

ステップ 2 スイッチの電源コネクタとアース付き AC 電源コンセントに AC 電源コードを接続し、スイッチに電源を投入します。8 ポートおよび 12 ポート スイッチについては、「AC 電源コードの固定 (Catalyst 3560 8 ポートおよび 12 ポート スイッチ)」 (P.15) を参照してください。

ステップ3 スイッチに電源を投入すると、スイッチは Power-on Self-Test (POST; パワーオン セルフテスト)を開始し、LED が点滅します。

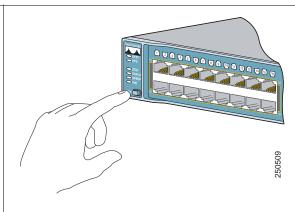
POST が完了するまで待機します。これには数分かかることがあります。

ステップ4 POST が完了したことを確認します。この場合、SYST LED がグリーンに点灯します。

POST に失敗すると、SYST LED はオレンジに点灯します。このエラーが発生した場合は、シスコのテクニカル サポート担当者に連絡してください。

MODE ボタンを 3 秒間押し続けます。**MODE** ボタンの上にあるすべての LED がグリーンに点灯したら、**MODE** ボタンを放します。

ボタンを押すと MODE ボタンの上の LED が点滅し始める場合は、MODE ボタンを放します。 LED が点滅する場合はスイッチが設定済みとなっており、Express Setup モードが利用できません。詳細については、「スイッチのリセット」(P.19) を参照してください。



ステップ 6 スイッチが Express Setup モードになったことを確認します。この場合、MODE ボタンの上にあるすべての LED が グリーンに点灯します

(一部のモデルでは RPS LED と PoE LED はオフのままです)。

カテゴリ 5 のイーサネット ケーブルを、スイッチ前面パネルの 10/100 または 10/100/1000 イーサネット ポートに接続します。

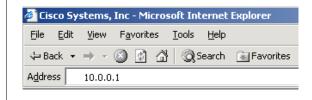
ケーブルのもう一端を DHCP 対応 PC のイーサネット ポートに接続します。



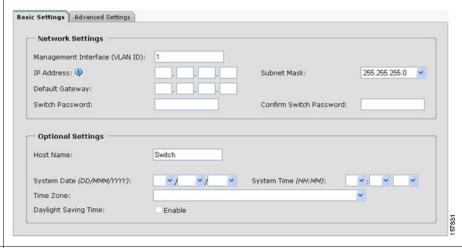
ステップ8 両方のイーサネット ポートの LED がグリーンに点灯していることを確認します。

30 秒間待機します。

ステップ9 Web ブラウザを開き、**10.0.0.1** と入力して **Enter** キーを押します。



Express Setup ページが表示されます。このページが表示されない場合は、「問題が発生した場合」(P.19) を参照してください。



ステップ 10 [Network Settings] のフィールドに、次の情報を入力します。

- [Management Interface (VLAN ID)] フィールドのデフォルトは [1] です。スイッチを管理する管理インターフェイスを変更する場合に限り、別の VLAN ID を入力します。VLAN ID の範囲は 1 ~ 1001 です。
- [IP Address] フィールドにスイッチの IP アドレスを入力します。[IP Subnet Mask] フィールドでは、下向きの 矢印をクリックして [IP Subnet Mask] を選択します。
- [Default Gateway] フィールドに、デフォルト ゲートウェイ (ルータ) の IP アドレスを入力します。
- [Switch Password] フィールドにパスワードを入力します。パスワードは、 $1\sim25$ 文字の英数字から成り、先頭文字を数字にすることもできます。ここでは大文字と小文字が識別されます。スペースを使用することもできますが、先頭と末尾には適用できません。
- [Confirm Switch Password] フィールドにもう一度パスワードを入力します。

ステップ 11

(オプション) [Optional Settings] の情報は、この時点で入力することも、デバイス マネージャ インターフェイスを 使用してあとから入力することもできます。

- [Host Name] フィールドにスイッチの名前を入力します。ホスト名は 31 字以内で、途中にスペースを含めることはできません。
- [System Date]、[System Time]、および [Time Zone] の各フィールドに、日付、時刻、時間帯を入力します。 夏時間をイネーブルにするには、[Enable] をクリックします。

ステップ 12 (オプション) [Express Setup] ウィンドウの [Advanced Settings] タブをクリックすると、詳細な設定が入力できます。または、デバイス マネージャ インターフェイスを使用してあとから入力することもできます。

Telnet Access:	○ Enable ⊙ Disable		
Telnet Password:		Confirm Telnet Password:	
SNMP:	○ Enable		
SNMP Read Community:		SNMP Write Community:	
System Contact:		System Location:	
IPv6 Settings			
Enable IPv6 (1)			

- ステップ13 (オプション) [Advanced Settings] のフィールドに、次の情報を入力します。
 - Command-Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) を使ってスイッチを管理するために Telnet を使用する場合は、[Telnet Access] フィールドで [Enable] をクリックします。Telnet アクセスをイネーブルにしたら、Telnet パスワードを入力する必要があります。
 - [Telnet Password] フィールドにパスワードを入力します。Telnet パスワードは、 $1 \sim 25$ 文字の英数字から成り、大文字と小文字が識別されます。スペースを使用することもできますが、先頭と末尾には適用できません。 [Confirm Telnet Password] フィールドに、もう一度 Telnet パスワードを入力します。
 - [SNMP] フィールドで [Enable] をクリックすると、Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) がイネーブルになります。SNMP は、Cisco Works 2000 またはその他の SNMP ベースのネットワーク管理システムを使ってスイッチを管理する場合にだけイネーブルにします。
 - SNMP をイネーブルにする場合は、[SNMP Read Community] フィールドと [SNMP Write Community] フィールドの両方またはどちらか一方にコミュニティストリングを入力する必要があります。SNMP コミュニティストリングにより、Management Information Base(MIB; 管理情報ベース)オブジェクトへのアクセスが認証されます。SNMP コミュニティストリングでは、スペースを使用できません。SNMP read コミュニティを設定した場合、SNMP 情報にアクセスはできますが、SNMP 情報の変更はできません。SNMP write コミュニティを設定した場合、SNMP 情報にアクセスすることも SNMP 情報を変更することもできます。
 - [System Contact] フィールドおよび [System Location] フィールドに、担当者名とスイッチが設置されているワイヤリング クローゼット、階、またはビルを入力します。
- ステップ14 (オプション) スイッチの Internet Protocol version 6 (IPv6) をイネーブルにできます。それには、スイッチで IP Advanced Services ソフトウェアが実行されている必要があります。IPv6 をイネーブルにするには、[Advanced Settings] タブの [Enable IPv6] チェックボックスをオンにします。IPv6 をイネーブルにすると、Express Setup の完了後にスイッチが再起動します。
- **ステップ 15** Express Setup を終了するには、[Basic Settings] または [Advanced Settings] タブの [Submit] をクリックして設定を保存します([Cancel] をクリックすると、設定がクリアされます)。

[Submit] をクリックすると、スイッチが設定され、Express Setup モードが終了します。PC に警告メッセージが表示され、スイッチの新しい IP アドレスによる接続が試行されます。スイッチに PC とは異なるサブネットの IP アドレスを設定した場合、PC とスイッチの接続ができなくなります。

ステップ 16 スイッチを PC から切り離し、ネットワーク内に設置します。スイッチの設定と管理については、「スイッチの管理」 (P.9) を参照してください。

Express Setup の再実行が必要な場合は、「スイッチのリセット」(P.19) を参照してください。

PC の IP アドレスのリフレッシュ

Express Setup が完了したら、PC の IP アドレスをリフレッシュします。

動的に割り当てられる IP アドレスの場合は、PC をスイッチから切り離し、ネットワークに再接続します。ネットワークの DHCP サーバにより、新しい IP アドレスが PC に割り当てられます。

固定 IP アドレスが割り当てられている場合は、以前設定されていた IP アドレスに変更します。

4 スイッチの管理

Express Setup を完了してネットワークにスイッチを設置したら、このセクションで説明されているデバイス マネージャまたは 他の管理オプションを使って詳細設定を行います。

デバイス マネージャの使用

スイッチ メモリに組み込まれているデバイス マネージャを使ってスイッチを管理できます。デバイス マネージャには、Web ブラウザを介して、ネットワーク上のどの場所からでもアクセスできます。

- **1.** Web ブラウザを開きます。
- 2. スイッチの IP アドレスを Web ブラウザに入力し、Enter キーを押します。デバイス マネージャのページが表示されます。
- **3.** デバイス マネージャを使用して、スイッチの基本的な設定とモニタリングを実行します。詳細については、デバイス マネー ジャのオンライン ヘルプを参照してください。
- **4.** さらに詳細な設定をする場合は、次のセクションで説明する Cisco Network Assistant をインストールします。

Cisco Network Assistant のダウンロード

Cisco.com から Cisco Network Assistant をダウンロードして PC で実行できます。スイッチ、スイッチ クラスタ、スイッチ スタック、ルータ、アクセス ポイントなど、複数のデバイスの設定とモニタリングを行う詳細オプションが提供されます。Cisco Network Assistant のダウンロード、インストール、使用にはいっさい料金は発生しません。

- **1.** Cisco.com への登録が必要な点を除けば、特別なアクセス権限は必要ありません。 http://www.cisco.com/go/NetworkAssistant
- 2. Network Assistant のインストーラを指定します。
- **3.** Network Assistant のインストーラをダウンロードし、実行します (Web から直接実行するオプションがブラウザにある場合は、これを選択できます)。
- **4.** 指示に従ってインストーラを実行します。最終画面で [Finish] をクリックし、Network Assistant のインストールを完了します。

詳細については、Network Assistant のオンライン ヘルプおよびスタートアップ ガイドを参照してください。

コマンドライン インターフェイス

Cisco IOS コマンドおよびパラメータは CLI によって入力できます。CLI にアクセスするには、PC をスイッチ コンソール ポートに直接接続するか、リモート PC またはワークステーションから Telnet セッションを使用します。

- **1.** アダプタ ケーブルを、PC の標準 9 ピンのシリアル ポートに接続します。ケーブルのもう一端をスイッチのコンソール ポートに接続します。
- 2. PC で端末エミュレーション プログラムを起動します。
- **3.** PC の端末エミュレーション ソフトウェアを、9600 ボー、8 データ ビット、パリティなし、1 ストップ ビット、フロー制御 なしに設定します。
- **4.** CLI を使用してコマンドを入力し、スイッチを設定します。詳細については、ソフトウェア コンフィギュレーション ガイド およびコマンド リファレンスを参照してください。

その他の管理オプション

CiscoWorks Small Network Management Solution (SNMS) や HP OpenView などの SNMP 管理アプリケーションを使用して、スイッチの設定と管理を行うことができます。また、HP OpenView や SunNet Manager などのプラットフォームが稼動している SNMP 対応のワークステーションからスイッチを管理することもできます。

Cisco IE2100 Series Configuration Registrar は、スイッチ ソフトウェア内蔵の CNS エージェントとともに動作するネットワーク管理装置です。IE2100 を使用すると、スイッチの初期設定と設定更新を自動化できます。

サポート ドキュメンテーションのリストについては、「Cisco.com のトラブルシューティング情報の利用」(P.20)を参照してください。

5 スイッチの設置

スイッチのモデルに応じて、スイッチをラック、壁、机の上や下、または棚に設置できます。また、マグネットやラックマウントブラケットを使用することもできます。その他の取り付け手順については、Cisco.com で提供されている『Catalyst 3560 Switch Hardware Installation Guide』を参照してください。

必要な工具

スイッチの設置には、次の工具が必要です。

- No. 2 プラス ドライバ
- #27 ドリル ビット (0.144 インチ [3.7 mm]) のドリル。ドリルは、Catalyst 3560 8 ポートまたは 12 ポート スイッチを机または壁に固定する際に必要です。

作業を開始する前に

スイッチの設置場所を決める際には、次の注意事項に従ってください。

- スイッチの周囲および通気口を通過するエアーフローが妨げられないこと。通気口の周囲には3インチ(7.6 cm)以上のスペースを確保してください。スイッチを積み重ねたり、8ポートまたは12ポートスイッチを横に並べて設置しないようにします。
- マグネットを使用せずに8ポートまたは12ポートスイッチを水平な表面に設置する場合は、エアーフローが妨げられて過熱するのを防止するために、スイッチにゴム製の脚を取り付けること。
- 8 ポートまたは 12 ポート スイッチをラックに設置する場合は、各スイッチの上に 1.75 インチ (4 cm) 以上の隙間を空けること。
- 8 ポートまたは 12 ポート スイッチを壁面に設置する場合は、スイッチの前面パネルを下に向けて設置して、エアーフローを制限しないようにし、ケーブルに簡単に手が届くようにすること。
- スイッチの上には何も置かないこと。
- スイッチの前面および背面パネルまでの間隔が次の条件を 満たしていること。
 - 前面パネルの LED を容易に確認できる
 - ポートに無理なくケーブルを接続できる
 - 電源コードがコンセントからスイッチ背面パネルのコネクタに届く

- スイッチ周辺の温度が 113°F (45°C) を超えないこと。
- スイッチの周辺湿度が85%を超えないこと。
- 設置場所の標高が 10,000 フィート (3,049 m) を超えない こと。
- 8 ポートまたは 12 ポート スイッチが最高温度の 113°F (45°C) で動作しており、通常の室温を超える環境 (クローゼット内、キャビネット内、密閉式またはマルチラック アセンブリ内など) に設置されている場合、ヒートシンクやスイッチの底面が手で触れたときに熱くなっている場合があります。
- ケーブルがラジオ、電線、蛍光灯などの電気ノイズ源から 離れていること。
- 10/100 ポートおよび 10/100/1000 ポートの場合、スイッチから接続先装置までのケーブル長が 328 フィート(100 m) を超えないこと。
- Small Form-Factor Pluggable (SFP) モジュールのケーブ ル長については、モジュールに付属のマニュアルを参照してください。

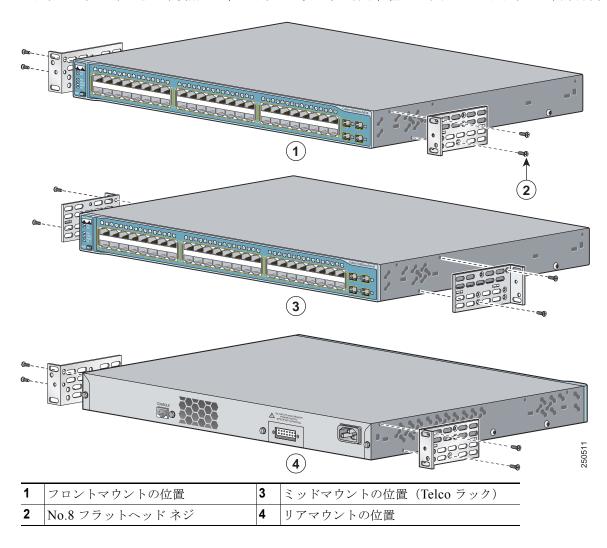
スイッチのラックマウント (Catalyst 3560 24 ポートおよび 48 ポート スイッチ)

このセクションの説明は、Catalyst 3560 24 ポートおよび 48 ポート スイッチに適用されます。Catalyst 3560 8 ポートおよび 12 ポート スイッチについては、「スイッチの机または棚への固定(Catalyst 3560 8 ポートおよび 12 ポート スイッチ)」(P.14)および「マグネットを使用したスイッチの設置(Catalyst 3560 8 ポートおよび 12 ポート スイッチ)」(P.15)を参照してください。

ここでは、基本的な 19 インチ ラックへの設置について説明します。Catalyst 3560G-48PS スイッチを例として示します。他の 24 ポートおよび 48 ポートの Catalyst 3560 スイッチも、各図のように設置して接続できます。

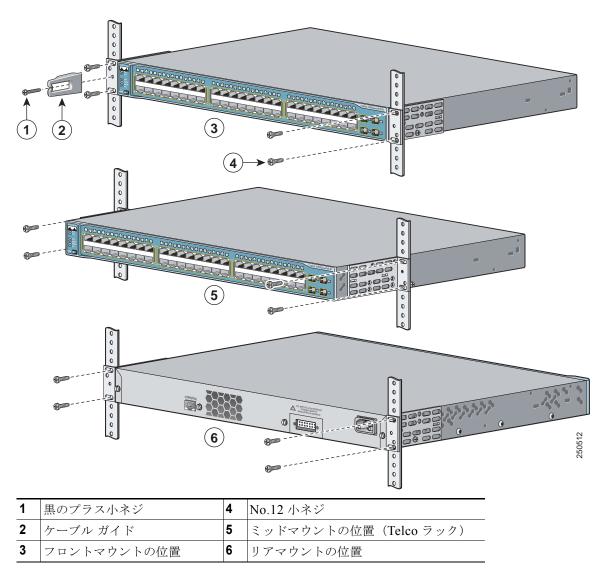
ブラケットの取り付け

フラットヘッド ネジを 4 本使用して、スイッチの次の取り付け位置のいずれかにブラケットの長手方向を取り付けます。



ラックへのスイッチの取り付け

黒の小ネジを使用して、左右いずれかのブラケットにケーブル ガイドを取り付けます。4本の No. 12 小ネジを使用して、ブラケットをラックに取り付けます。

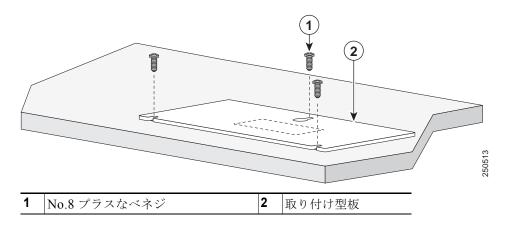


スイッチの机または棚への固定 (Catalyst 3560 8 ポートおよび 12 ポート スイッチ)

取り付けネジを使用せずに Catalyst 3560 8 ポートまたは 12 ポート スイッチを机に設置するには、スイッチの底面パネルにゴム製の脚を 4 つ取り付けます。

机または棚の上や下、または壁に Catalyst 3560 8 ポートまたは 12 ポート スイッチを固定するには、取り付け型板と取り付けネジを 3 本使用します。

- 1. 2つの隣り合うスロットを手前にしてネジの型板を取り付け面の上に置きます。底面の粘着シールをはがして型板を貼り付けます。
- **2.** 0.144 インチ (3.7 mm) または #27 のドリル ビットを使用し、型板のネジのスロット位置に 1/2 インチ (12.7 mm) の穴を開けます。
- 3. 型板のスロットにネジを差し込み、型板に触れるまで締めます。型板を取り付け面から外します。

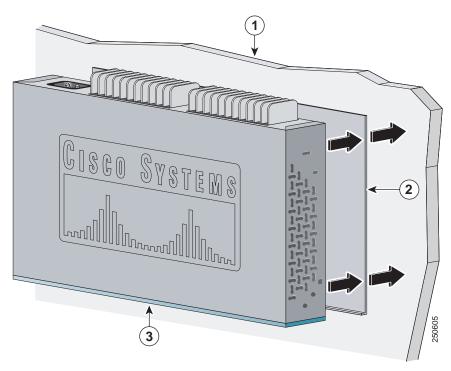


4. 取り付けネジの上にスイッチを載せ、ロックされるまで前方にスライドさせます。

マグネットを使用したスイッチの設置(Catalyst 3560 8 ポートおよび 12 ポート スイッチ)

マグネットを使用してスイッチを設置する場合は、安全基準に従って、前面パネルを下に向けてエアーフローを制限しないようにし、ケーブルに簡単に手が届くようにしてください。これには、金属製ファイリング キャビネットなどの垂直の磁気面に、マグネットを使用してスイッチを設置する必要があります。

- 1. 取り付け面に取り付けマグネットを配置します。
- 2. スイッチの底面をマグネットに置きます。



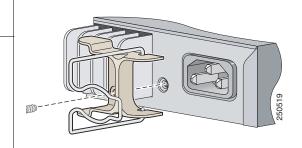
1	金属取り付け面	3	スイッチの前面パネル
2	取り付けマグネット		

6 AC 電源コードの固定(Catalyst 3560 8 ポートおよび 12 ポート スイッチ)

AC 電源コード保持板はオプション部品(PWR-CLIP-CMP)です。

ステップ 1	電源コード保持板のワイヤをプラスチック ホルダー上の
	スロットに差し込みます。

ステップ2 付属のネジでプラスチック ホルダーをスイッチの背面パネルに固定します。



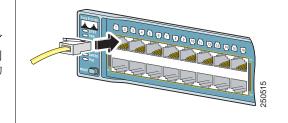
	ワイヤを電源コード コネクタの右側に倒して AC 電源 コードを差し込みます。	25052
	開口部を上向きにした状態で、電源コード ブッシングを 電源コードに取り付けます。保持板のワイヤはブッシング 上の1つのスロットにしか収まりません。保持板のワイヤ をブッシング スロットに移動します。	250521
	電源コード コネクタに向かってブッシングをスライドさせてから時計回りに回し、ブッシングの開口部を電源コードの右側に向けてしっかり締めます。	250522
ステップ 6	ブッシングの開口部に固定クリップを差し込みます。	250053
	電源コードを正しく固定すると、次のようになります。	250524 250524

7 スイッチ ポートへの接続

ここでは、スイッチ、SFP モジュール、および両用ポートに接続する方法と接続の確認方法について説明します。詳しい接続方法については、Cisco.com で提供されている『Catalyst 3560 Switch Hardware Installation Guide』を参照してください。

10/100 および 10/100/1000 ポートへの接続

ステップ1 サーバ、ワークステーション、IP Phone、ワイヤレス アクセス ポイント、ルータに接続する場合は、スイッチの10/100 または 10/100/1000 ポートにカテゴリ 5 の 4 ツイストペア ストレート ケーブルを差し込みます。また、別のスイッチ、ハブ、リピータに接続する場合は、カテゴリ



ステップ2 接続先装置のコネクタにケーブルの反対側を差し込みます。

5の4ツイストペアクロスケーブルを使用します。

Catalyst 3560 Power over Ethernet (PoE) スイッチの固定ポートは、IEEE 802.3af 準拠装置に対して PoE サポートを提供し、Cisco IP Phone と Cisco Aironet Access Point に対して先行標準の PoE サポートを提供します。

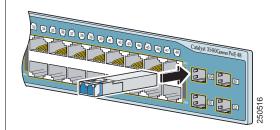
Catalyst 3560-24PS スイッチの各 10/100 ポートまたは Catalyst 3560G-24PS スイッチの各 10/100/1000 ポートでは、最大 15.4~W の PoE を供給できます。Catalyst 3560-48PS スイッチまたは 3560G-48PS スイッチでは、48 個の 10/100 ポートまたは 10/100/1000 ポートのうちの任意の 24 ポートで 15.4~W の PoE を供給できます。または、ポートを任意に組み合わせて平均 7.7~W の PoE を同時に供給できます。したがって、スイッチで供給できる電力は最大 370~W になります。

デフォルトでは、Catalyst 3560 スイッチの PoE ポートに有効な受電装置が接続されると、ポートから自動的に電力が供給されます。PoE ポートの設定とモニタリングについては、スイッチのソフトウェア コンフィギュレーション ガイドを参照してください。PoE のトラブルシューティングについては、Cisco.com で提供されている『Catalyst 3560 Switch Hardware Installation Guide』を参照してください。

簡易接続の場合、スイッチの Automatic Medium-Dependent Interface crossover (auto-MDIX) 機能はデフォルトでイネーブル に設定されています。auto-MDIX 機能がイネーブルになっている場合は、スイッチで銅線イーサネット接続に必要なケーブル タイプが検出され、それに応じてインターフェイスが設定されます。したがって、スイッチの 10/100 または 10/100/1000 イーサネット ポートには、接続先装置のタイプに関係なく、クロスケーブルとストレート ケーブルのどちらも使用できます。

SFP モジュールの取り付けとモジュール ポートへの接続

ステップ1 モジュールの両端を持ってスイッチのスロットに差し込み、コネクタが奥に装着された感触があるまで押します。

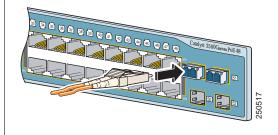


ステップ2 適切なケーブルをモジュールのポートに差し込みます。



(注)

スイッチに両用ポートがある場合は、「両用ポートへの接続」(P.18) も参照してください。



ステップ3 ケーブルのもう一端を別のデバイスに差し込みます。

サポートされるモジュールのリストについては、Cisco.com で提供されているリリース ノートを参照してください。SFP モジュールの取り付け、取り外し、接続の詳細な手順については、SFP モジュールに対応するマニュアルを参照してください。



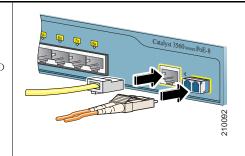
注意

SFP モジュールの取り外しや取り付けを行うと、モジュールの耐用期間が短くなる可能性があります。必要な場合以外には、SFP モジュールの着脱を行わないようにしてください。

両用ポートへの接続

ステップ1 コネクタを 10/100/1000 ポートに差し込むか、SFP モジュールを SFP モジュール スロットに取り付けて、ケーブルを接続します。

アクティブにできるポートは一度に1つだけです。両方のポートを接続した場合は、SFP モジュール ポートが優先されます。優先順位の設定は変更できません。



ステップ2 ケーブルのもう一端を別のデバイスに差し込みます。

ポートの接続の確認

スイッチ ポートに接続すると、スイッチがリンクを確立する間、ポート LED がオレンジに点灯します。約30秒でこのプロセスが完了すると、ポート LED はグリーンに変わり、スイッチと接続先装置の間にリンクが確立されます。ポート LED が点灯しない場合、接続先装置が起動していない、ケーブルに問題がある、接続先装置のアダプタに問題があるといった理由が考えられます。オンライン サポートについては、「問題が発生した場合」(P.19) を参照してください。

8 問題が発生した場合

何らかの問題が発生した場合は、本セクションおよび Cisco.com のヘルプを参照してください。ここでは、Express Setup のトラ ブルシューティング、スイッチのリセット方法、Cisco.com のヘルプを利用する方法、詳細情報の検索方法について説明します。

Express Setup のトラブルシューティング

Express Setup を実行できない場合、または Express Setup のページがブラウザに表示されない場合は、次の指示に従ってください。

• Express Setup の起動前に POST が正常に実行されたこと を確認しましたか。

確認していない場合は、SYST LED と STAT LED だけがグ リーンに点灯していることを確認してから、MODE ボタンを 押して Express Setup モードを開始してください。

• スイッチが POST を実行している間に MODE ボタンを押 その場合は、POST が完了するまで待機します。スイッチの しましたか。

電源を再投入します。POST が完了するまで待機します。 SYST LED と STAT LED がグリーンに点灯していることを確 認してから、MODE ボタンを押して Express Setup モードを 開始します。

スイッチが Express Setup モードになったことを確認せず に作業を続けようとしましたか。

MODE ボタンの上にあるすべての LED がグリーンに点灯して いることを確認します (一部のモデルでは RPS LED はオフ)。 必要に応じて MODE ボタンを押し、Express Setup モードを開 始します。

• PC に固定 IP アドレスがありますか。

PC に固定 IP アドレスが設定されている場合、PC を一時的に DHCP を使用する設定に変更してからスイッチに接続します。

ルを接続しましたか。

• スイッチのポートと PC のイーサネット ポートの間で、ス クロス ケーブルを接続した場合は、スイッチと PC のイーサ トレート イーサネット ケーブルの代わりにクロス ケーブ ネット ポートにストレート ケーブルを接続します。30 秒待っ てから、ブラウザに 10.0.0.1 と入力します。

• イーサネット ケーブルを、スイッチの 10/100 または 10/100/1000 イーサネット ポートではなく、コンソール ポートに接続しましたか。

その場合は、コンソールポートからケーブルを取り外し、ス イッチと PC のイーサネット ポートに接続します。30 秒間 待ってからブラウザに 10.0.0.1 と入力してください。

に IP アドレスを入力しましたか。

スイッチと PC を接続した後、30 秒待機してからブラウザ そうでない場合は 30 秒待機し、ブラウザに 10.0.0.1 と再入力 して Enter キーを押します。

• 誤ったアドレスをブラウザに入力したか、エラーメッ セージが表示されますか。

その場合は、ブラウザに 10.0.0.1 と再入力して Enter キーを 押します。

スイッチのリセット

スイッチのリセットが必要となるのは、次のような場合です。

- スイッチをネットワークに設置したが、誤った IP アドレスを割り当てたため、スイッチに接続できない。
- スイッチの設定をすべて解除し、新しい IP アドレスを割り当てたい。
- Express Setup モードの起動時に MODE ボタンを押すと、スイッチの LED が点滅する (この場合、スイッチには IP 情報が 設定されている)。



スイッチをリセットすると、設定が削除されてスイッチが再起動されます。

19

スイッチをリセットするには、MODE ボタンを押し続けます。約3秒後にスイッチのLED が点滅し始めます。MODE ボタンを押し続けます。7秒経過するとLED の点滅が停止し、スイッチが再起動されます。

これで、このスイッチは未設定のスイッチと同様に動作します。「Express Setup の実行」(P.6) で説明したように、Express Setup を使用してスイッチの IP 情報を入力できます。

Cisco.com のトラブルシューティング情報の利用

最初に、Cisco.com で提供されている『Catalyst 3560 Hardware Installation Guide』または『Catalyst 3560 Software Configuration Guide』のトラブルシューティング セクションで、問題の解決方法を探します。シスコの Technical Support and Documentation Web サイトには、ハードウェアの既知の問題や、次のようなトラブルシューティングに関するさまざまなドキュメンテーションのリストがあります。

- 出荷時のデフォルト設定およびパスワードの復旧
- 不良および行方不明のソフトウェアの復旧
- スイッチ ポートの問題
- ネットワーク インターフェイス カード
- トラブルシューティング ツール
- 現場での注意事項とセキュリティ勧告

以下の手順を実行してください。

- **1.** ブラウザを開き、http://www.cisco.com/ に移動します。
- 2. [Support] > [Select Your Product] > [Switches] > [LAN Switches] > [Catalyst 3560 Series Switches] > [Troubleshooting and Alerts] の順にクリックします。
- 3. 該当する問題をクリックします。

詳細情報

スイッチの詳細については、Cisco.com で提供されている次のドキュメントを参照してください。

- 『Release Notes for the Catalyst 3750, 3560, 2970, and 2960 Switches』。スイッチの設置、設定、またはアップグレードを行う前に、Cisco.com で提供されているリリース ノートを参照して最新情報を確認してください。
- 『Catalyst 3560 Switch Hardware Installation Guide』には、すべてのハードウェアの説明と詳細な設置手順が記載されています。
- 『Regulatory Compliance and Safety Information for the Catalyst 3560 Switch』には、適合規格、適合性に関する情報、各国 語版の警告が記載されています。
- 『Catalyst 3560 Switch Software Configuration Guide』には、スイッチ ソフトウェア機能の詳細な説明と手順が記載されています。
- 『Catalyst 3560 Switch Command Reference』では、スイッチ用に作成または変更された Cisco IOS コマンドが詳しく解説されています。
- 『Catalyst 3750, 3560, 3550, 2970, and 2960 Switch System Message Guide』では、スイッチ用に作成または変更されたシステム メッセージが説明されています。
- デバイス マネージャのオンライン ヘルプ (スイッチで利用可能)
- Cisco Network Assistant のオンライン ヘルプ (スイッチで利用可能)

9 マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『What's New in Cisco Product Documentation』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。 http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html

『What's New in Cisco Product Documentation』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダー アプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。

10 シスコ リミテッド ライフタイム保証

保証規定については、製品に同梱されているドキュメンテーション CD をご覧ください。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。 各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は当社の Web サイト(www.cisco.com/go/offices)をご覧ください。

CCDE, CCENT, Cisco Eos, Cisco Lumin, Cisco Nexus, Cisco StadiumVision, Cisco TelePresence, Cisco WebEx, the Cisco logo, DCE, and Welcome to the Human Network are trademarks; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn and Cisco Store are service marks; and Access Registrar, Aironet, AsyncOS, Bringing the Meeting To You, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, CCVP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Collaboration Without Limitation, EtherFast, EtherSwitch, Event Center, Fast Step, Follow Me Browsing, FormShare, GigaDrive, HomeLink, Internet Quotient, IOS, iPhone, iQuick Study, IronPort, the IronPort logo, LightStream, Linksys, MediaTone, MeetingPlace, MeetingPlace Chime Sound, MGX, Networkers, Networking Academy, Network Registrar, PCNow, PIX, PowerPanels, ProConnect, ScriptShare, SenderBase, SMARTnet, Spectrum Expert, StackWise, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, TransPath, WebEx, and the WebEx logo are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (0809R)

お問い合わせは、購入された各代理店へご連絡ください。



シスコシステムズ合同会社

〒 107-6227 東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・タワー

http://www.cisco.com/jp

お問い合わせ先:シスコ コンタクトセンター

0120-092-255(フリーコール、携帯・PHS 含む)

電話受付時間:平日 10:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00

http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/

OL-17734-02-J